

教員を目指す学生を対象にした集団宿泊活動に関する研修

平成30年12月3日(月)、12月8日(土)～9日(日)

【目的】

教員を目指している学生が、さまざまな体験をする中で、集団宿泊学習の意義を理解する。また、指導者の視点で活動を見ることで、効果的な指導や安全管理などの知識・技能を習得する一助とする。

【参加者】15名

【プログラムの内容】

1日目

- 11:00 開講式、オリエンテーション
- 11:20 実習Ⅰ 野外炊飯
- 15:15 実習Ⅱ アイスブレイク等
- 19:30 実習Ⅲ 実習Ⅱのつづき
(悪天候のためボンファイヤーを変更)

2日目

- 9:30 講義Ⅰ 安全管理(ファーストエイド)について
 - 10:30 演習Ⅰ 指導者としての考え方について
 - 11:30 閉講式
- ※12月3日に大学で「体験活動の意義」について本所職員が講義を実施しています。

実習Ⅰ「野外炊飯」



野外炊飯しながら、コミュニケーションの楽しさを体験しました。また、個人にミッションカードが配られ、そのミッションをクリアしながら活動してもらい、様々な役割を演じてもらう事で、子どもたちの行動パターンを意識してもらいました。

実習Ⅱ「アイスブレイク等」



様々なアクティビティを体験することでそれぞれの体験から得られることが違うという事を学んだ。

また、それらの体験が知識とつながったときに力を発揮することを学んだ。

実習Ⅲ「実習Ⅱのつづき(ふりかえり)」



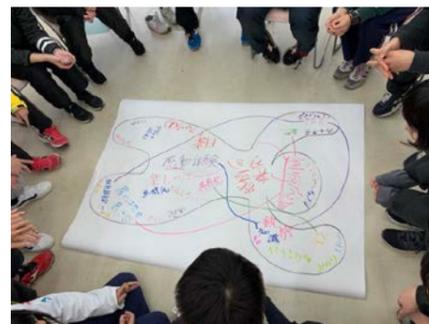
天候が悪いという事で急きょ予定を変更し、実習Ⅱの続きをするとともに、1日の振り返りと翌日に向けた目標設定をしました。1日で起きた出来事とその意味をみんなで解釈しながら学んだことを言葉にしました。

講義Ⅰ「安全管理について」



活動中によくある怪我についてファーストエイドを学びました。また、事前踏査の重要性など準備段階でしておくべきことを学びました。

ふりかえり



2日間の活動の振り返りと自分たちの変容に関する振り返りを行い、体験活動を行うことで学べる事、成長できることを洗い出しました。

【参加者の声】

最初は「楽しい」だったが、自分の事を考え、周囲の事を考えながら動いている自分に気付いた。

体験すること自体も大切だが、それを整理することも同様に大切だという事を学んだ。

活動毎に学べる事が違う事を学んだ。また、それをイメージして活動を計画することで子どもたちは必要な事を学べるということも学んだ。

【成果と課題】

昨年より3名増えて15名の参加となった。悪天候により活動プログラムの変更を余儀なくされたが、学生たちは楽しんで活動してもらえたと思う。また、活動自体の面白さ、体験の大切さを学んだ学生は多いようだった。

また、「体験」の教育効果について、指導者が意識してプログラムを組むことの大切さや、事前に準備をすることの大切さを学んだようでした。

課題としては、担当スタッフのスキルの確保や、実施時期について調整が必要と感じた。また、学生が講義で学んだこととリンクしやすいように、研修内容を吟味する必要があると感じた。